

男女共同参画のための  
第4次品川区行動計画の推進に向けて  
(第15期品川区行動計画推進会議報告書)

2016年(平成28年)3月  
第15期品川区行動計画推進会議

## はじめに

男女共同参画のための品川区行動計画（第4次）のもとで、第15期行動計画推進会議が2014年（平成26年）6月に発足し、品川区長から「各ライフステージにおける女性の活力を生かした地域・社会参画の促進について」意見を求めるとの諮問を受けました。

第4次品川区行動計画が2009年（平成21年）に策定されて以降、行動計画推進会議では「品川区の男女共同参画センターの役割について」「品川区における仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の進捗状況指標」「女性の力を生かした自助・共助による地域防災力」等について区の施策への提言をしてきました。いずれの報告書においても共通するのは『地域』というキーワードです。女性が持っているネットワークは地域と生活に根付いてゆるやかに、かつ確実に結びつき、コミュニケーション力によって持続性を持つと言えます。

女性が地域で活躍するためには、男性の協力と賛同が欠かせません。そして品川区にずっと住み続けたいと思える生活環境の実現が不可欠です。今期第15期の行動計画推進会議では、品川区の女性が自らの能力を生かして地域活動に参画することによって地域を活性化できるという視点で、現状の課題を掘りおこして議論し、人生のライフステージに特徴的な生活イベントに照らし合わせながら、行動につなげる現実的な提言にまとめました。区民の地域参加への意欲と実行を後押しし、区に対しては有効な支援策を求めるものです。

折しも第15期の会議が佳境に入っていた2015年（平成27年）に内閣府の平成27年版男女共同参画白書が発行され、特集が「地域の活力を高める女性の活躍」でした。私どもの会議が区長から受けた諮問はまさに時宜を得たテーマと言えるでしょう。

本報告書の提言がよりよい地域社会の発展のための施策に反映されるように期待するものです。

2016年（平成28年）3月

第15期行動計画推進会議会長 市川 美知

# 目 次

## 各ライフステージにおける女性の活力を生かした地域・社会参画の促進について

第1部 女性の視点による現状と提言	1
第1章 諮問に対する基本的な考え方	3
1 女性の活力と男女共同参画センター	3
2 男性の理解と協力	3
3 ライフステージのとらえ方と地域・社会参画	3
第2章 具体的な地域・社会参画活動とライフステージ	4
1 地域活動の主体となる団体（集まり）	4
①町会・自治会	
②ボランティア団体	
③NPO法人	
コラム1 地域の活動は女性に多く担われています	6
2 教育・養育活動	6
3 PTA活動	7
4 生涯学習・スポーツ活動	8
5 介護・社会福祉活動	9
6 環境保護活動	10
7 防災・安全に関する活動	11
8 文化・国際交流活動	12
9 自分の職業を通じた活動	13
コラム2 自分の得意分野や経験を活動に生かす	14
コラム3 活動継続の秘訣	14
第3章 課題と支援の方向性	15
1 地域づくりの活動拠点としての男女共同参画センターの充実	15
2 異世代交流の必要性和交流の場の充実	15
3 区と区民との協働を有効に機能させる	15
4 広報活動と情報発信を効果的に	16
5 マッチングの仕組みづくり	16
6 将来に向けた人材の育成と確保	16
7 活動の表彰と周知	16
8 ワーク・ライフ・バランスのさらなる推進	17

第2部 区民のための地域参画ナビ	19
1 行動に移すには	21
2 地域・社会参画団体の事例	21
3 「地域・社会参画ナビ」	25
参考資料	33
品川区行動計画推進会議（第15期）委員名簿	37
諮問事項	38
品川区行動計画推進会議（第15期）報告書検討経過	39
「人権尊重都市品川宣言」	41



## 第1部

### 女性の視点による現状と提言



## 第1章 諮問に対する基本的な考え方

女性の活力を生かす場がある地域は、女性のみならず男性も仕事以外の活動に十分な力を発揮できる地域社会であると言えます。地域・社会参画が旧来の男女の固定的な役割分担の意識を変えていくための方策になるのではないのでしょうか。

### 1 女性の活力と男女共同参画センター

品川区においては長年にわたり健全な地域社会を維持するためにさまざまな施策が実施されてきていますが、とりわけ女性たちが地域課題の解決や地域経済の活性化のために社会的に自立し活躍することが今こそ必要とされています。提案力も実行力もある女性たちがその力を発揮するために男女共同参画センターの果たすべき役割は大きいと言えます。センターは女性の活力を生かした地域・社会参画を促すための情報や活動の拠点となり、実践を支援する場であることを広く周知する必要があります。

### 2 男性の理解と協力

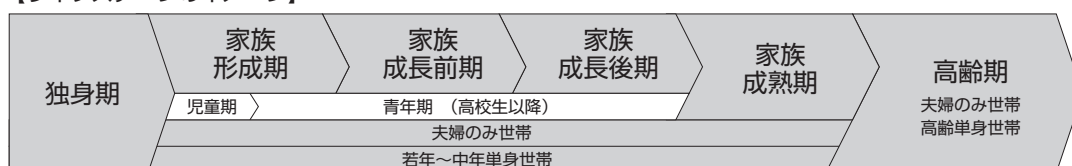
女性には、日常の生活を通して地域が抱える課題やニーズを敏感にとらえ、地域が備える魅力や可能性を引き出す視点があります。また、コミュニケーション能力を活かした仲間づくりにより、社会的な地域活動を展開している例も多くあります。

「社会とつながりたい」「人の役に立ちたい」と考える女性が地域活動に参画するためには男性の理解とサポートは必要不可欠です。男性が自らの働き方を見つめ直し、夫婦で家事育児等をシェアすることにより、女性に心理的・時間的余裕が生まれ、女性が輝く地域社会の実現に大いに役立つものだと考えます。さらに男性も仕事以外の活動に力を発揮することにより地域のメンバーであることを確認でき、それにより地域社会がさらに活性化します。

### 3 ライフステージのとらえ方と地域・社会参画

本報告書では、品川区世論調査の分析に用いられるライフステージの分類を参考にしました。しかし女性の活力を生かすという観点からは、家族を中心としたくくりだけでは収まらず、高齢単身者や若年単身者、夫婦のみの世帯にも目を向け、さらに児童期（小・中学校期）と青年期（高校生以降）において実地で学び経験することが重要であると考えました。

【ライフステージのイメージ】





## 第2章 具体的な地域・社会参画活動とライフステージ

### 1 地域活動の主体となる団体（集まり）

#### ①町会・自治会

##### ●現状

第21回品川区世論調査2014年（平成26年）版（以下、「第21回世論調査」）によると、町会や自治会への加入状況は55.2%です。町会は役員の高齢化や担い手不足の問題を抱えているものの、男性に比べて地域で過ごす時間が比較的長い女性にとって地域の課題を解決する場として身近な存在のほずです。しかし役員に占める割合は会長をはじめとして男性である場合が多く、運営に女性の活力が十分に生かし切れていない現状があります。

##### ●ライフステージで特徴的なこと

男女とも仕事や子育てがひと段落した家族成熟期や高齢期に属する元気な人を中心にさまざまな活動が行われています。町会・自治会が地域の生活全般に対応する活動を担っていることを考えると、20代～40代の子育て世代を含む幅広いライフステージの参画が望まれます。

##### ●区民としてできること

第21回世論調査によると、町会・自治会の催し物への参加状況は「参加したことがある」が32.3%です。参加すること自体が地域活動であることを認識してもらうために、町会は会報を充実させて町会活動の存在を知ってもらうことが必要です。また、若い世代のため子ども向け行事や、防犯・防災活動を行っていることを幅広い世代にアピールする必要もあります。女性ならではの「ご近所づきあい」「PTA活動」「子育て」といったコミュニケーションをそのために有効活用します。

#### 【提 言】

- ◆従来の紙ベースの広報だけでなく、区民活動情報サイト「しながわすまいるネット」を有効利用した町会活動を広報する。
- ◆地域貢献団体の表彰を充実させ、町会活動を活性化する。
- ◆町会同士がもっと交流し、お互いの活動に学び合う機会を設ける。
- ◆町会長や自治会のリーダーの女性の割合が男性と同等となるよう働きかける。

#### ②ボランティア団体

##### ●現状

地域・人のつながりが必ずしも強くないため、ボランティア活動に参加したいと思っ

でも勇気をもって行動に移すことは簡単ではありません。また、活動したいと思っても何をしたらいいのか、どのような活動があるのかがわからないこともあります。加えて、ボランティアの人数・性別・年齢などの需給にミスマッチがあり、必要な場所に必要なボランティアを提供できなかつたり、逆に提供希望者が過剰になったりしている分野もあります。

#### ●ライフステージで特徴的なこと

全国社会福祉協議会「全国ボランティア活動実態調査」（2010年（平成22年））によると、ボランティアを担っている団体・グループの代表者の年齢は60歳以上が約70%を占めており、約3人に2人は女性が占めています。このことからボランティア活動は高齢者と女性が中心となっていると言えます。一方で若い世代が積極的に立ち上げるケースも多くなってきました。品川区でも同じような傾向が見られます。

#### ●区民としてできること

困っている人、苦しんでいる人の役に立ちたいという思いから、福祉活動はもちろん災害復興支援、国際協力、最近では街づくりに関する活動支援についてもNPO法人（特定非営利活動法人）と連携して行っているボランティア団体は少なくありません。他者との関わりを持ち続け、地域に密着しながら生活することの多い女性は人的交流を活発にすることができると言えます。

#### 【提 言】

- ◆ ボランティア団体・グループとの協働を推進する。
- ◆ ボランティア活動の拠点として既存の施設をさらに利用しやすくする。  
例：児童センター、図書館、ほっとサロン、男女共同参画センター等
- ◆ 需給のバランスを的確に把握したマッチングシステムの構築に努める。
- ◆ 活動領域を超えたボランティア紹介イベントを開催する。

### ③NPO法人（特定非営利活動法人）

#### ●現状

2015年（平成27年）現在、品川区に主たる事務所をおくNPO法人は255団体あります。NPO法人の活動は多岐にわたり、行政と協働して多くの社会的課題を解決するサービスを提供する公益的な役割を担っています。NPO法人の役割は今後ますます大きくなると予想されますが、その一方で、発展的な活動を続けるための資金の基盤整備が整っておらず、多くのNPO法人が財政面で苦心しています。

#### ●ライフステージで特徴的なこと

世代や性別を超えて活動に参加することができるのが特徴で、さまざまなライフス

ページに応じて活躍できる役割を果たしています。災害救援や社会起業的な要素を持つNPO法人では大学生や若者の参加が多く見られます。行政との協働型のNPO法人では男性の参加も多く、国際協力や子どもの育成など市民活動継続型のNPO法人では女性の活躍が目立ちます。リタイアした高齢期の人たちの活躍の受け皿になる活動をしているNPO法人もあります。

### ●区民としてできること

それぞれのNPO法人が関係機関と連携を取りながら、情報の共有や人的ネットワークの拡大を行い、運営面で自助努力を重ねることはもちろんですが、活動に共感する区民の参加（寄付を含める）が待たれるところです。

#### 【提 言】

- ◆ NPO 法人との協働事業と事業委託を増やす。
- ◆ 協働事業、事業委託をする場合は法人自体の活動を担保できる仕組みをつくる。
- ◆ NPO 法人の活動を区民に広く周知し、寄付や人材の確保を後方支援する。
- ◆ 大学のインターンシップの選択肢として NPO 法人も候補になるように働きかける。
- ◆ NPO 法人同士や NPO 法人と区民がつながるイベントを開催して相互コミュニケーションの場をつくる。

#### コラム1 地域の活動は女性に多く担われています

内閣府発行の平成 27 年版の男女共同参画白書によると、ボランティア活動に従事した人の数は、都道府県間のばらつきがあるものの概して男性より女性が多くなっています。これは女性が家にいる時間が男性に比べて長く、比較的自由に時間が使えるからだと考えられます。女性が地域で諸活動の牽引役となって存分に活力を発揮するためには、こま切れな日常の時間ではなく、計画的にものごとが進められる時間の確保が必要です。それには男性の長時間労働の是正による協力も必要でしょう。男性の労働時間が短くなれば「夫が外で働き、女性が家庭を守る」という考えかたが変わり、男女が共に地域参画活動に積極的に参加できる土壌ができていきます。

## 2 教育・養育活動

### ●現状

子育ての第一義的な責任は保護者にありますが、親だけではなく地域社会から見守

られているという実感があると、子どもは安心して育ちます。すべての子どもの健やかな成長と自立のためには、家庭・地域・教職員が一体となって地域全体で次世代育成に取り組む必要があります。また、今の子どもたちは物質的な豊かさや便利さの中で生活する一方、社会性や倫理観の不足、自立の遅れ、いじめなど、さまざまな問題を抱えています。品川区ではこれらに対応すべく、独自の教科である「市民科」を通じて教育が行われています。

#### ●ライフステージで特徴的なこと

家族形成期および家族成長期（前期・後期）がもっとも関わりが大きいと言えます。また、独身期や高齢期であっても若い親戚が近くに住んでいる、教育関連の職業に従事しているなど、身近に子どもがいる場合は関わりが大きくなります。

#### ●区民としてできること

「子どもは地域へのパスポート」（安藤哲也・NPO法人ファザーリング・ジャパン代表理事）とも言われますが、子どもを通して地域に関わる機会を大切にすることが求められます。また、自分の子や孫だけでなく地域の子どもの保護者と関わりあうことは人間性を豊かにします。女性ならではの気軽なコミュニケーション能力を生かし、クラスで懇親会を企画するなど自ら進んで保護者同士の交流を深めていくことも大切です。

身近に子や孫がいなくても子どもを見守る重要性を意識し、近所の子どもへの挨拶、83（ハチサン）運動<sup>（注1）</sup>、地域で開催される学校公開へ足を運ぶなど、地域住民が参加できる身近な教育・養育活動があります。

#### 【提 言】

- ◆「市民科」を通じて、品川っ子に「男女共同参画」の考えかたを浸透させる。
- ◆家庭・地域・教職員がつながる「場」として、学校、幼稚園、保育園を有効活用する。

（注1）83（ハチサン）運動：「小学生の登下校時刻である8時と3時には、なるべく外の用事を行いながら子どもを見守ろう」という品川区立小学校PTA連合会長の発案で2005年度（平成17年度）に始まった運動。

### 3 PTA活動

#### ●現状

子どものことに関わりたい、サポートしたいとの思いから、地域活動への参画として、PTA活動に参加されている人も少なくはありません。しかし、役員のなり手が少なく、活動をしていない人に対する不公平感が生じている現状も見受けられます。業務量が多い、活動時間帯が平日の昼間であることが多い、専業主婦の負担が大きい

という声もあります。

#### ●ライフステージで特徴的なこと

地域によって多少異なりますが、家族形成期の中でも、児童期の活動が中心です。

#### ●区民としてできること

本来PTAは、子どもたちが育つ環境をよりよくするため、保護者が学校や地域と協力して活動するものです。活動をすることが子どもたちのためになるので、期間限定の特権と考え役員と親同士が共通認識を持つことが必要です。

働いている保護者も参加できる活動時間帯の工夫、必要に応じた活動内容の見直し、会議の回数を減らすために交流サイト（SNS）<sup>（注2）</sup>を連絡方法として活用するなど、気軽に楽しめるよう垣根を低くする活動の改善への取組みが考えられます。PTAに参画することで、同世代の子どもを育てる保護者から情報を得られ、学校との距離を縮めることができ、自分の子ども以外の他の子どもたちと仲良くなれるなど、得られるものは少なくありません。大人たちが楽しんで活動している姿を見せることは、子どもたちに良い影響を与えてくれます。

#### 【提 言】

- ◆子育て世代ではない一般区民に対しても、PTA 活動を通じた地域との繋がりや異世代交流を拡充できる広報活動を行う。

（注2）交流サイト（SNS）：ソーシャル・ネットワーキング・サービス。インターネットを通じて人と人とのつながりを促進・サポートするサイトのこと。Facebookやツイッターなどが例として挙げられます。

## 4 生涯学習・スポーツ活動

#### ●現状

高齢者の介護予防や子どもの運動能力低下などの問題を受けて生涯学習やスポーツへのニーズは高まっています。品川区ではそれらを踏まえてさまざまな講習やイベントが実施されています。ただし対象年齢が設定されている取り組みがほとんどであるため、各ライフステージのニーズに合わせて必要なサービスを届けるという観点からは有意義ですが、活動の範囲が限定的になる懸念があります。

#### ●ライフステージで特徴的なこと

ライフステージによるニーズの違いはありますが、生涯を通じて関わることでできる活動です。

#### ●区民としてできること

活動を続けることで出会いが生まれ、地域との関係が築かれていくので、芸術・学び・健康・体力づくりなど、一人ひとりが無理せず自分らしく楽しむことが大切です。

す。異世代と一緒に活動できる企画は、活動の幅が広がるばかりでなく、新たなネットワークが生まれてきます。ふだん地域で交流を持ちにくい人たちをつなげて盛り上げるツールにもなります。

#### 【提 言】

- ◆ 区と関係の深い、(公財)品川文化振興事業団と(公財)品川区スポーツ協会に対して、異世代交流の重要性を啓発する。
- ◆ 講習やイベントの企画運営について、女性の視点を積極的に活用する。

## 5 介護・社会福祉活動

### ●現状

高齢者福祉と障がい者福祉は必ずしも同列で語ることはできませんが、障がい者の高齢化もすすむ中で、切り離して考えることはできません。現在は、「老老介護」が51.2%です(厚生労働省まとめ2013年(平成25年))。このうち80%以上が配偶者、残りは高齢の子ども等による介護です。障がい者の親も高齢者の介護をする人もともに高齢化が進み、自分が倒れた時の不安を抱えながら介護をしています。介護者自身の体力の衰えや病気が介護や家事の負担感を増大させています。特に男性の介護者は慣れない家事に苦勞しているケースが多くみられます。また、社会からの引退と介護で家にこもる時間が増えるため孤立しやすい状況となります。認知症の方が同じ認知症の配偶者を介護する「認認介護」のケースも年々増加しており、介護における品川区の課題は介護者への手厚い支援といえます。

### ●ライフステージで特徴的なこと

障がい者の介護でも高齢者の介護においても、介護者自身が高齢期のライフステージにいる場合が多くみられます。高齢期の特徴としてはコミュニケーションネットワークが狭くなる、体力低下、健康状態の悪化、経済力の低下などがあげられます。

### ●区民としてできること

元気な高齢者は「まずはできることを、できるところから」やることが重要です。社会福祉協議会が行っている援助を求める人と提供する人を引き合わせる「さわやかサービス」や、ボランティアセンターなど、既存の組織を利用して活動する、あるいは新しく自分たちの目指す活動を開始する。いずれにしても、まずは『動いてみましょう』。

また、介護者の3人に1人が男性である現在、男性は家事能力を早期に身につければ老後生活が豊かになります。高齢者による高齢者支援は、若い世代の負担を減らすとともに、元気な高齢者の生きがいを生み出します。

### 【提 言】

- ◆元気な高齢者による介護ボランティアを養成し、修了者を正式な介護支援ネットワークに組み入れる。
- ◆高齢者の健康増進のための運動や食事に関する楽しいプログラムを考案する。

## 6 環境保護活動

### ●現状

第21回世論調査によると、経済コストがかかっても地球環境に負担の少ない生活スタイルを選ぶ人々が約60%を占めるなど、区民の環境保護への意識は高い傾向にあります。一方で、環境保全の大切さはわかるが便利な生活を犠牲にしたくないと考える人も約32%います。日常の買い物・掃除・洗濯など、生活に密着した役割を担うことが多い女性は地球環境の保全について一層の理解を深めることが必要です。

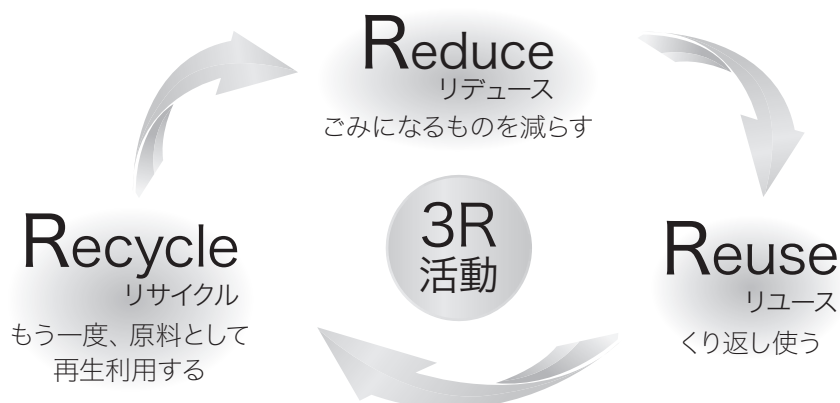
また同調査では、日常生活の中で環境保全を意識して心掛けていることとして、「ごみ・資源の分別を徹底し古紙・紙パック・缶・びん・ペットボトルなどをリサイクルに出す」が67.8%と最も高い数字となっています。資源循環型の生活については一定の理解が浸透していると言えます。

### ●ライフステージで特徴的なこと

世代や性別によって興味や取り組みはさまざまですが、意識さえあれば、どのライフステージにおいても気軽に取り組むことができます。

### ●区民としてできること

地域や学校での3R活動などを身近にできる環境保護活動にまずは参加することで、それが持続可能な社会の大切さを認識するきっかけになります。また、活動を通じて人と人との関わりが生まれ、「快適に暮らせる環境は自分たちの力で作り出していく」というエネルギーにつながります。



### 【提 言】

- ◆地域ごとに町会・自治会やボランティア団体、NPO 法人が連携して区民が気軽に参加できるエコ活動を推進する仕組みを作り、活動の実績と意義をわかりやすく説明する。
- ◆水と緑が豊かで美しい景観のまちづくりのために、既存の公園や河川について区民のアイデアを募集して整備する。

## 7 防災・安全に関する活動

### ●現状

第21回世論調査によると、区の施策として最も力を入れてほしいのは「防災対策」で35.2%となっています。女性39.1%は男性30.8%よりポイントが高く、女性の防災への意識が高いことを示しています。しかしながら活動への参加という点では実績が上がっていません。交通安全に関する活動でも同様です。

第14期品川区行動計画推進会議報告書（2014年（平成26年））では女性の力を生かした自助・共助による地域防災力の向上について提案がされました。その中で育児や介護等で在宅の時間が多く隣近所のネットワークを持つ「地元力」がある女性が、防災にとって重要な力となることが再認識されています。

### ●ライフステージで特徴的なこと

防災防犯安全対策の重要性については老若男女共通ですが、常にライフステージに合わせた見直しは欠かせません。家族のありかたによって個々の安全防災対策の形があるので、我が家特有の被災の可能性を想像し、話し合い、準備しておくことが大切です。

### ●区民としてできること

助け合いは名簿確認も大事ですが、まず顔見知りです。現在、防災訓練・交通安全運動や被災時の避難所の運営は町会・自治会単位が主流ですが、町会等の大きな組織だけでなく小さな顔見知りグループでの助け合いが求められます。子育てや介護を通して女性は小さなコミュニティで活動を広げているので、日常生活の延長で助け合うことができるのではないのでしょうか。さらに、女性は妊娠・出産・介護等、命に向き合う経験による「声」を男性にもわかるように届けなければなりません。地域で安心して暮らすという観点から、お互いに助け合う「共助」をもっと進める必要があります。

### 【提 言】

- ◆防災区民組織のリーダーの女性の割合が男性と同等となるよう働きかける。
- ◆防災訓練や防災フェア等で「女性の声」枠を設定する。



- ◆わかりやすい「災害時自助力アップノート」(第14期行動計画推進会議報告書)等を利用して、情報の発信を継続する。
- ◆同報告書の共助分野で提案した「ボランティア団体のための女性のネットワークづくり」を実現する。

## 8 文化・国際交流活動

### ●現状

品川区で暮らす外国人は約11,000人で、総人口の約3%になります(2016年(平成28年)3月1日現在、品川区ホームページ)。街中で外国人を見かける機会も増えてきましたが、お互いの交流がごく自然に行われているとは言えず、地域における外国文化の理解はまだまだです。言葉の壁もあり、外国人と積極的にコミュニケーションを図ることのできる区民は多くはありません。

また、品川区内に古くから受け継がれてきた多くの文化的・歴史的資源、神社仏閣の祭礼や催しは、国際交流促進のよい材料になると同時に、区民の伝統文化の継承の取り組みにもつながります。品川ならではの伝統文化の継承は小学校や地域の文化施設などを利用して進められています。

### ●ライフステージで特徴的なこと

身近に異文化交流があるかどうかは、ライフステージや性別というよりは個人の価値観や所属する環境によって異なります。例えば、家族形成期から家族成長期においては、子どもの同級生や保護者が外国人であることにより異文化交流が積極的に進むケースもあります。伝統文化との触れ合いは、地域のお祭りなどに代表されるイベントのようにライフステージにかかわらず身近であるといえます。

### ●区民としてできること

異文化交流は自国の文化や伝統を再認識するチャンスです。外国人が参加する地域行事、区や国際友好協会の交流事業や語学教室などに参加し、積極的に交流を行えば、お互いに文化や伝統に対する理解を深めることができるようになります。

### 【提言】

- ◆地域行事に外国人の積極的な参加を促し、外国人が参加可能な日本語教室、生け花や料理教室等のイベントの拡充・広報を行う。
- ◆外国人の支援活動の企画運営に女性がさらに積極的に参画するように働きかける。(公財)品川区国際友好協会等)
- ◆品川の伝統文化の継承やそれを伝えていく人材と学ぶ場所を確保する。若者と外国人の参加を支援して異世代交流を促進する。

## 9 自分の職業を通じての活動

### ●現状

品川区内の女性就業率は59.2%（第21回世論調査）となっており23区内では上位の数字です。就業中の女性の内、未就学児の子育て中の就労状況はフルタイムが26.8%、パート・アルバイトが15.7%となっています（品川区次世代育成支援対策推進行動計画）。子育て中の就労女性のみならず、働く女性はワーク・ライフ・バランス（仕事と家庭の調和）<sup>（注3）</sup>に苦心しており、地域の活動や行事に参加したいと思ってもなかなかできないのが現状です。

### ●ライフステージで特徴的なこと

子育て中は地域のサポートが欲しい時期です。子どもが小学校に入ると学校を通じた活動参加ができるようになりますが、仕事との折り合いが難しくなります。フルタイムで働いていても、パート・アルバイトであっても地域活動への時間の配分ができず、やりたくてもできない状況が続きます。そして子育てもひと段落したときには、自分が地域コミュニティから遠ざかっていることを認識させられる場合が多いようです。

### ●区民としてできること

働いている女性は自分が仕事をしていること自体が地域参画であり、社会参画であると考えられます。例えば勤めている女性は、勤め先がやっているCSR推進活動の内でも地域を対象にした環境活動などに積極的に参加する、これも立派な地域活動になります。また自営や起業している女性は同じ思いを持つ仲間とつながり、地域でできる社会貢献活動ができるのではないのでしょうか。自分の店やオフィスがある地域で環境への取組みや子ども見守り運動「83（ハチサン）運動」に参加するなども地域・社会参画になります。働きやすく地域貢献もできる職場環境を自ら作れることが自営や起業家女性の強味です。この活力に男性も刺激を受けて地域の活気をもたらす効果も期待できます。

### 【提 言】

- ◆ 企業の地域貢献活動への女性の積極的参加を促すキャンペーンを実施する。
- ◆ 区内の女性創業者の集まりを活発化して、共同で地域・社会貢献活動ができる場が持てるようなネットワークづくりを支援する。
- ◆ 子どもを預ける保育園や小中学校等の地域一体型活動に、仕事を持つ保護者を巻き込むように指導する。
- ◆ ワーク・ライフ・バランスと地域・社会参画について考えるイベントを開催する。

（注3）ワーク・ライフ・バランス：老若男女誰もが、仕事、家庭生活、地域生活、個人の自己啓発など、さまざまな活動について、自ら希望するバランスで展開できる状態のこと。（2007年（平成19年）男女共同参画会議）

## コラム2 自分の得意分野や経験を活動に生かす

地域参画には多種多様な参加の形・分野があります。基本的には地域の人間関係が途切れてしまわないように関わりを持つことが大事です。助ける側・助けられる側、どちらにもなりうることで地域は生涯関われる場です。関わるのが次のステップへの第一歩となります。

そして、一人ひとりとはさまざまなライフステージにいます。各ステージでできることを具現化していくことが大事です。個人の考え方・得意なこと・できること・人生観など、自分を見直して、自分のキーワードを探し、自分らしい活動を見つけることが大切です。多様なライフスタイルがあり、多様なニーズが生まれますが、経験してきた当事者だからこそ、真に求められることが通じ合え、地域の活力にもなりえます。



## コラム3 活動継続の秘訣

50年以上都区内で主に高齢者支援の地域活動を続けてきた女性に「継続」の秘訣をお聞きました。

主なポイントを5つ紹介します。

- ◆活動内容について仲間同士で深く理解する。
- ◆活動内容や時間がメンバーの負担になりすぎない。
- ◆仲間・家族・行政との親密なコミュニケーションを欠かさない。
- ◆「言ったら変わった、やったらできた。」の体験を積み重ねる。
- ◆なにはともあれ「たのしいこと」

以上の内容は、活動の継続を考える際の参考になります。

## 第3章 課題と支援の方向性

---

この章では女性の活力を生かした地域参画、地域活動を推進し、好循環させるために共通して考えるべき課題と区の支援の方向性について述べます。

### 1 地域づくりの活動拠点としての男女共同参画センターの充実

男女共同参画センターは施設や設備においては整備されつつあり、使いやすくなっています。ただ早急にインターネットによる予約システムを導入して利便性を向上させることが望まれます。センターのホームページのサイトも東京都の他区に比べると情報量が少なく、女性の地域・社会参画活動の拠点としてその機能および施策の周知・広報の重責を存分に担っているとは言えません。今後は様々な情報の授受が可能になるように区職員のみならず、ボランティアを募集するなどして運営力を強化したいものです。区民団体やグループ等の情報交換、自主的な講座開催の機会が一層増えると思われれます。

また、センターは男女共同参画についての文化や価値観を人の集まりや情報提供、活動により共有するといった機能面での拠点でもあることから、その存在をますます広く周知していく必要があります。

### 2 異世代交流の必要性和交流の場の充実

女性が地域で培ってきたコミュニケーション力を発揮して年齢や男女、職業に関係なく互いの声を聴き合う異世代交流がもっと盛んになる必要があります。しかし、そのための集まる場所、居場所が不足しています。地域センターや男女共同参画センターも異世代交流の場としてもっと活用が検討されるべきです。また、増加しつつある空き家や空き室を有効に利用した区民のボランティアによる企画・運営も視野に入れてほしいものです。リアルな場所のみならず、交流サイト（SNS）による情報発信を利用すれば、男女を問わず帰宅時間が遅くなりがちな区民も情報を得て活動のきっかけを得ることができます。

### 3 区と区民との協働を有効に機能させる

活動に対して区の後援や支援、委託を受けることで各団体の事業遂行の信頼性が高まります。区は区民の活動を信頼して委託による協働を進めてほしいものです。グループや団体は活動を広報する上で、区の広報力を活用することも重要になります。多くの区民に情報が行き渡り、活動の活発化・継続化が期待できます。

活動のための金銭支援は多くは望めないものの必要不可欠と言えます。

#### 4 広報活動と情報発信を効果的に

現在、区の広報活動（「広報しながわ」、「しながわすまいるネット」、「ふれあい掲示板」、区のホームページ等）によって相当数の情報は掲載されています。ただ区民の年齢別の情報取得方法にばらつきがあり、仕事で忙しい区民や若年層に内容が広く周知されているとは言えません。女性の口コミ力で広報を拡散させるためにも、広報のありかたや利用のしかたについて女性の意見を取り込むことが求められます。

品川区には様々な自主グループ支援制度がありますが、関係各課で個別に管理されているので効率よく情報収集するのが難しい現状があります。後述する第2部の「地域参画ナビ」をたたき台として、区民にむけた情報発信リーフレットや、区ホームページにおける地域・社会参画に特化した統合ページの作成を提案します。

さらに、区のホームページは「しながわすまいるネット」との連携を強めるとよいでしょう。

各種イベントの開催も広報活動の一環といえます。紹介されているイベントにできるだけ多くの区民が参加できるような仕組みが望まれます。

#### 5 マッチングの仕組みづくり

活動する人と活動を求める人をつなぐ情報とコーディネーターする人（コーディネーター）が必要です。品川区社会福祉協議会の「さわやかサービス」「ファミリーサポートセンター」ではコーディネーターが両者の調整をしてくれますが、その他の多くの活動ではこのような丁寧な対応はされていません。区の所管別ではなく、統合的に登録・利用できるデータベースがあれば、データベースとコーディネーターの両輪の仕組みで双方をマッチングすることが容易になるでしょう。さらに、品川区における多岐にわたる活動グループ同士の相互交流の仕掛けも必要です。個々の活動が連携することにより、有効な成果が期待できます。

#### 6 将来に向けた人材の育成と確保

前項で述べたコーディネーターには調整や架け橋的な役割がありますが、これには女性が向いているといわれています。コーディネーターをはじめとして活動推進ができるリーダーの人材発掘や育成は急務です。こうした人材が育っていくと活動が継続的になるばかりではなく、活動の幅が広がり、区民ばかりでなく地域にかかわる人材として企業、商店街、学校、医療機関などで活動する人たちとの連携も期待できます。

#### 7 活動の表彰と周知

他の自治体でも実施しているように、活動の成果を表彰し周知することも必要です。

社会的に評価が得られることは、活動する団体にとって励みになり、今後の活動発展への動機づけになります。

## 8 ワーク・ライフ・バランスのさらなる推進

個々人の地域活動への参画がライフステージに応じてゆるやかに移行できて活動が続けられることが理想です。そのためには女性も男性も「ワーク（仕事）」と「ライフ（家庭）」のバランスを現実のバランスから希望のバランスにより近づける必要があります。さらにここに「地域」を加えることを提案します。「地域」での活動はワークでもあり、ライフでもあるからです。このような考えかたを区民と企業などの事業体、地域の活動団体と共有することにより、品川区の地域活動と女性の活躍はさらに発展していきます。ワーク・ライフ・バランスの推進は男女共同参画センターが強力なリーダーシップを発揮してハード面、ソフト面の両面から推進していくことが求められます。

